

はつひろにくす

No. 19

学校法人大阪工大摂南大学図書館報

「本」を読もう

学生諸君、「本」を読んでいますか。

受験時代に参考書というダイジェストしか読めなかった人にとっては、1冊の本を読むのには苦勞が伴うかも知れません。苦勞は嫌なので、そんな暇はないという理由をつけて、マンガや雑誌ばかりに目を通していませんか。世の中には若者のしたいことがあまりにも多く、ゆっくり本を読むなんてオジン臭い、そんな奴オクレテルと思っているのではありませんか。

本を読まない人は、随分人生を損するでしょう。本の中にはさまざまな人生が書かれ、多くの思考が存在しています。それを読むことによって、自分一人では体験できない世界を体験し、いろいろな思考の原型が与えられるのです。本を読むことによって、広い知識を得、豊かな人間性が涵養され、正しい思考ができるようになるのではないのでしょうか。

皆さんが社会に出られると、書くこと、話すことが重要になってきます。これらの基本は、日頃からいかなる本をどれだけ多く読んでいるかに関わっているといっても過言ではないでしょう。スラスラと内容のある文章の書ける人、人を引きつけ感動を与える話のできる人、自分の思っていることを正しく表現できる人……羨しいですね。生れながらの才能もあるでしょうが、これらの人達は多くの本を読んでおられるのです。

ではどんな本を読んだらよいのでしょうか。私にとっては難かしい問です。世の中ブランドばやり、本のブランドものすなわち名著とされているものからでもよいでしょう。偉人の生き方を書いた伝記ものからでもよいでし

図書館長

川本 整



よう。いろいろ読んでいるうちに感動的な本にもめぐり逢い、読みたい本を自分で物色するようになるでしょう。

私が本を読みだしたのは高校に入学してから。隣の席の人が開いている本が阿部次郎の「三太郎の日記」。なかなか読みごたえがある面白い本だよという彼に聞くと、すでに世界文学、日本文学の名立たるものは中学時代に読んでいたとのこと。それからの私は、彼が推薦して貸してくれる本、図書室で物色した本など手当たりしだいに熱中して読んだものでした。今から考えての反省は、乱読であったこと、人生論的書物に接しなかったこと、そして現在は一時的な楽しみを与えてくれる推理小説に、頭の体操という理由をつけてのめり込んでいることなどでしょう。

今でも何か書かねばならない、挨拶しなければならぬ立場に追い込まれると憂鬱になります。データのある書きものや学会の研究発表は、実験屋ですからさほど苦勞はないのですが……。

4月から図書館長をお引き受けすることになり、頭に貯蔵されているものの少なさを嘆きつゝ、憂鬱な気持で駄文を走らせました。学生諸君、近き将来私のような悩みを味あわないためにも、今本を読んでおきましょう。

図書館の本は皆さんを待っていますよ。

(工大一般教育科教授・理学博士
1989年4月から第10代図書館長に就任)

希望図書購入制度／私はこちら利用した

読書らしい読書をしたときに…

工大・D3

中島 茂

現在、この工大図書館は、当然ながら理工系図書が中心に、というよりむしろそれらが大半を占めています。実験などに追われて忙しい僕ら工学部の学生にとって、図書館で利用する本といえば、レポートの作成のための理工系の参考書が主になってしまいます。だから読書らしい読書のできる本、言いかえれば「文系の本」を見ることはめったにないし、暇もないといったところではないでしょうか。たまに読書しようと思ひ立ち、何かあるかなと探してみても、文系の蔵書数自体少いのもあって、本当に自分の読みたい本を見つけ出すのはなかなか難しいものです。

僕の場合、こんな時にこの「希望図書購入制度」を利用しています。書店でいろいろと眺めていて、少し高価な本や語学教材など、いいものがあればもちろん、「おもしろそうだが、買うほどの本ではない」というような場合でも、とりあえず図書館に購入してもらおうようにしています。

さて、このようにして買ってもらった本の中から、特に気に入ったものを1冊ここで紹介しておきます。先日、生協書籍部で見つけて、購入依頼して3日ほどで入荷した『当世学生事情』(田口寛治著・青年期コーナーに配架)という本。

神戸大学で教壇に立ち続けてきた著者が、試験の答案の余白に書いてもらった学生の落書きをもとに、現代学生の気質と、その長所や短所について客観的にとらえ、述べているという内容。と言っても中身は至ってソフトで、とにかく紹介されている落書きが傑作揃いで、声を出して笑って読めるものから、seriousなものまでさまざまです。試験について、から始まり、クラブ、大学・教授への批判、恋愛論と、果ては宗教までとび出すこの落書きですが、われわれと同じ学生が気楽に書いたものなので、親近感を持って読めるし、同感する所も多い。また、彼らの考えみたいなのがうかがえて、興味半分でも面白く読める。それに、この先生の意見がいい所を突いているし、さすが論理学を講義している方だけあって、論理的に愉快に述べてあり、思わず納得してしまう。特に、文系と理系の学生をおのおのナマケモノとマントヒビに例えたその話は実にウマかった。

この本は、ただ面白かったとかだけでなく、その後いろいろ考えにふけてしまったりと、読んでみて何かいい栄養になったような実感のわく不思議な本でした。

とにかく一度読んでみたらよいんでない…?



『スイスを愛した人びと』

笹本 駿二 著

岩波新書(新赤版) 46

「スイスのような自由な、堅固な国があることがわかってから、ぼくはいつでも安心していられます。いざというときには、スイスにいつでも逃げこむことができるからです。」

こう言ったのはゲーテです。そしてこの言葉どおりの運命をたどったのが、ゲーテを敬愛してやまなかったトーマス・マンです。ナチスに

故国ドイツを追われ、マッカーシズムでアメリカを追われ、最後に「スイスに逃げむ」ことになったわけです。

アインシュタインもまたゲーテを愛読していました。彼はスイスに帰る友人にこう語りました。「君は、ぼくが知っている限りでは、この地球ではいちばん美しい、あのスイスにかえっていくんだな」と。

この小冊子は、マンやアインシュタインのほか、ローザ・ルクセンブルグ、レーニン、ジェームズ・ジョイス、といった人びととスイスとの関わりを紹介しています。彼等は一様にスイスへの愛と感謝とを表明しています。それほど愛された国、スイスの輝きはいったいどこか

ら来るのでしょうか。それは「政治的自由、寛容、平等があらゆる法律に優先する」ところからくるのです。

スイスが美しいのは、単に風景だけではありません。

ません。その風景のなかに住む人びとの精神が輝いているから、それほどまでに美しく、人びとから愛されているのです — ということはこの本は語っています。

(S.K)

シリーズ淀川ぶらり散策

第10話「淀川の上り下り」

桜が咲き誇る中、また新生を迎える季節となった。

年号も改まり、平成の時代となったが、淀の流れは今日も変わらず静かに流れ、川面にはのどかに春風が吹き渡っている。黙して語らない淀の流れであるが、時の移ろいの中に、時代時代に繰り広げられてきた栄耀栄華、栄枯盛衰等、古から今日までの来し方に、今何を思い浮かべているのであろうか。

古くから、淀川は西国と京とを結ぶ交通路として重要な役割を果たしてきた。淀川が大きな河川であり、また瀬戸内海が穏やかな海であったため、途中で荷物を積み替えることなく、淀川を上り下りするのと同じ船で、そのまま瀬戸内海を航行することが可能であった。また陸路に比べ海上輸送は、大量の物資の運搬ができ、かつ費用も安いという利点を持ち、九州・四国・中国地方から京への米穀、塩、魚類、材木等の物資運搬の手段として、淀川の海上交通は尊重され、また栄えたのであった。一方、尾張や美濃等の東国地方から京の都へは、淀川のような水路がなかったため、米の代りに「軽物」と呼ばれていた絹織物等が、牛や馬の背に乗せて運ばれていた。

淀川の水運には、古くは淀上荷（うわに）船と言われる積載量二十石の小船が、淀川、木津川の荷物運送に携わっていた。淀上荷船は、また淀船とも二十石船とも称せられていた。その後三十石積み以上の大きな船が築造されるにおよび、淀川の水運はますます発展を遂げた。

大阪の八軒家（現在の天満橋と天神橋の中間にあった船着場）から伏見の豊後橋（現在の観月橋）の定期便であった三十石船、禁裏御用の鮮魚を大阪から横大路か枚方まで運ぶ今井船、また伏見を中心とした十五石船の伏見船等があり、船客や貨物の運搬のため、淀川を上り下りする船の往来は激しく活況を呈していた。また

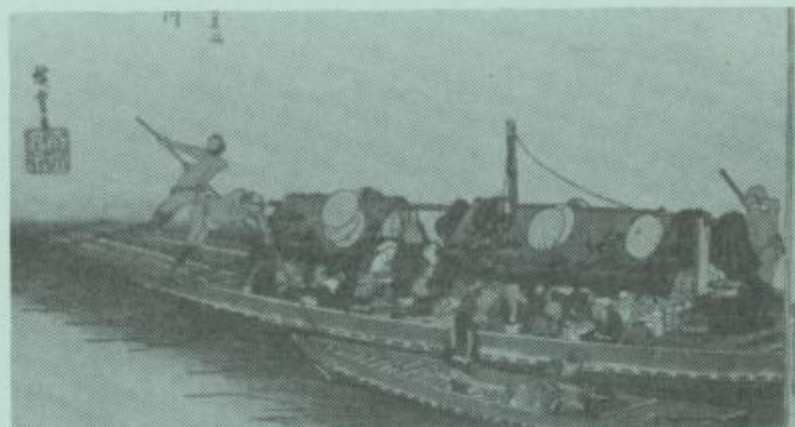
船着場・渡船口にあたる八軒家、枚方、橋本、伏見等の賑わいは格別だった。

三十石積み以上の船は、豊臣秀吉の晩年の慶長3年（1598）に御朱印船となり、過書船（かしょぶね）の名が与えられ、過書奉行の支配下に置かれることとなった。過書船とは、元来は過書（関書手形）を所持する船を指すものであった。この過書船の制度は徳川幕府にも引き継がれ、最盛期の享保7年（1722・将軍吉宗）頃には、その数740艘にのぼったとされている。この過書船のうち三十石船は客船であった。

三十石船は、全長15間、幅2間余の船で、乗客の定員は28名、それに4名の船頭が乗っていた。伏見への上りには1日または1夜、八軒家への下りは半日（半夜）を要したという。この三十石船については、弥次さん、喜多さんで有名な十返舎一九の「道中膝栗毛」や、「江戸っ子だってねえ、寿司食いねえ — —」のセリフで有名な浪曲「森の石松琴平代参」等にも出てきて、一般によく知られているところである。このように淀の川面を、のどかに上り下りする三十石船の姿は、淀川の一つの風物詩となっていた。しかし淀川は、豊富な水量に加え急流や緩流が多く、またよどみや浅瀬が多い川であったため、船を操る船頭にとっては、特に淀川を上る際の苦労は、大変なものがあったという。この船頭達の苦しみは、次のように唄われている。

ひきつなのたゆむ間もなく せいだして
かせぐ舟子（船頭）を まなべ世わたり

第10話 「淀川の上り下り」完



三十石船とくわんか舟（安藤広重画）

図書館活用の手引き①⑦

新入生への図書館案内—いまなぜ図書館か?—

世界有数の出版王国と言われるわが国で、年間に出版される新刊書籍は37,000点(1987年度)にのぼります。このうち、諸君に関係の深い理工学分野の図書だけでも約7,000点、その1冊当りの平均価格は3,370円と他の分野の図書に比べ割高となっています(ちなみに、新刊書全体での平均価格は2,450円)。

書籍以外に、定期的に発行される逐次刊行物やAV資料などを加えると、新刊刊行数はさらにぼう大なものとなります。

そして、この“爆発的な”本の増殖活動は年々拡大する一方なのです。

こうした数字の一端にふれるだけでも、もはや個人の力ではどうにも及ばない情報化時代のすさまじい現実を思い知らされます。

かつて読書家の多くは蔵書家でもあり、財力の許す範囲でせっせと本を購入し、読書にふけることもできました。しかし、いまや対象を限られた分野に限定しても、そうした“古典的”な購読法には限界があることが痛感されるようになってきました。

いかな“カネ余りニッポン”の優雅な(?)学生諸君とて、ポケットマネーをはたいて追いつく物・量ではなくなったのです。

そこで頭の切り替えが必要となります。

もう「本はなるべく買わない」—と言って本屋さんに悪いのなら—せめて「軽々しくは買わない」、どうしても手元に置きたいという本だけを購入し、あとは図書館をウマク利用する…

ここでいう図書館とはむろん本学中央図書館を意味しますが、諸君の住んでいる地域の公共図書館などを含めて考えてもよいでしょう。学費や税金を収めているのですから、学生として、市民として大いに利用しなければ損です。「オレの図書館」というくらいの気持で、大き

な顔をして利用しましょう。

中央図書館をウマク利用するコツ…

その1. 図書館を諸君の“たまり場”にする。

と言っても、雑談の場ではなく、諸君の書齋といった感じで。大学生活には断片的な空き時間が結構あるはずですから、そういう時はまず図書館へ。

その2. どんな本がおいてあるかをつかむ。

図書館に居つくようになると、段々感触がつかめるようになりますが、さらに端末機による所蔵検索を利用すると、閉架書庫にある約20万冊の本の状況も把握できるようになり、利用の範囲も広がります。

その3. ない本でも諦めず館員に相談する。

摂南大学や高校図書室、さらには外部の図書館等に依頼し、借り出すことも可能です。

その4. 希望図書購入制度を利用する。

書店で見かけ、図書館がまだ購入していない新刊本など狙い目です。早ければ3日後に利用が可能です。

その5. わからないことは何でも気軽に館員に相談する。

このような相談にのることも図書館員の重要な仕事です。参考(レファレンス)業務といって、事項調査や各種利用指導、読書相談等も受け付けています。

以上、とくに新入生諸君には、早くから図書館に馴んでいただき、図書館の有効な利用を通じて真に情報化時代にふさわしい勉学方法を身につけていただきたいと思います。

お知らせ

卒研貸出を開始します。

対象：4年次卒業研究着手許可者

貸出冊数：3冊以内

貸出期間：1ヵ月以内(継続可)

取扱期間：4月10日～明年3月12日

編集後記

新入生諸君を迎え、キャンパスもフレッシュな活気に充ちている。あっちウロウロ、こっちキョロキョロともの珍しそうな君…

しかし、今だからこそ余計「初心」、「原点」をたしかめてほしいと思う。そんな諸君に、われわれの図書館は確かな何かを伝えてくれるはず。

新入生諸君を初め皆さんの大挙来館を念じつつ……

学校法人大阪工大摂南大学図書館報

No.19 (1989. 4)

編集発行 大阪工業大学中央図書館

〒535 大阪市旭区大宮5丁目16番1号

TEL 06-952-3131